

阿蘇の草原環境学習の取り組みを広げ

POINT 01

地元小中学校との協働により草原環境学習を推進しています

先生による研究会を開催しました

阿蘇郡市内の小中学校に勤務する先生方が、教育の現場で阿蘇の草原をどのように活用できるか、また阿蘇の自然環境について理解を深めるための学習を展開するには何が必要かを情報交換するために、「草原環境学習研究会」を立ち上げました。昨年11月2日（水）、7名の先生の参加のもと開催した第1回会合では、「阿蘇の草原が危機に瀕していることを知らない先生が多い」「総合学習や遠足などに環境省の『出前講座』を活用するとよい」「草原ま

での交通手段が一番の問題」など、草原再生の取り組みを先生方に働きかけることの必要性、草原が授業に活用されるためのアイデアや課題など、貴重な意見がたくさん出ました。研究会は、これからも月1回程度のペースで開かれる予定です。

メールマガジンや「草原新聞」で情報発信

先生向けに、草原環境学習に関する情報を提供するメールマガジンの配信をはじめました。また、児童や生徒、PTA向けには、草原のことを知ってもらうために「草原新聞」を発行していきます。（4P参照）

POINT 02

阿蘇の草原環境を学ぶツアーを開催しました

環境省では、昨年秋、「阿蘇の草原環境を学ぶツアー」を2回にわたり実施しました。



阿蘇の草原の成り立ちや現状についてレクチャーを受ける



輪地野焼き—実際に農家が行う草原の維持管理作業を手伝う

このツアーは、阿蘇の草原環境を実際に体験しながら草原の成り立ちや現状を学ぶことをねらいとしたものです。ツアー終了後に行ったアンケートによると、多くの参加者が「草原や身近な自然への関心が高まった」「草原再生の取り組みに何らかのかたちで参加したい」といった感想を持ったことがわかりました。さらに、全員が「またツアーに参加したい」と希望しており、ツアーを受け入れた農家の方からも、今後も受け入れていきたいという意向が示され、今後の展開に向けて期待を持てる結果となりました。

インタビュー 草原を守る人々



井 廣明氏 産山村西原牧野組合組合長、山吹中山間組合組合長。産山村産山在住。56歳。

にしぼる
西原牧野は「日本の棚田100選」に認定されている「扇田」周辺に広がる野草地です。私たちの農業は、原野でのあか牛放牧と刈り干し切り、厩堆肥を利用した棚田の米作り、クヌギを楯木（ほだぎ）にした椎茸栽培が中心で、原野の資源を循環利用しています。良い水と素晴らしい景観にも恵まれ、豊かな環境で育んだ地元産品を広くPRしていきたいと思っています。

牧野は急傾斜地が多く、加えて有畜農家

の減少や高齢化で維持管理作業は大変ですが、植物保護のためにもできるだけ広く草を刈り、豊かな草原環境を守っていかうと努めています。昨秋は、福岡の専門学校生が草原環境学習の一環として刈り干し作業の手伝いに来てくれました。地域や草原のことを知ってもらいたい機会になったと思います。外の人々との交流は、地域の人々を元気にします。今後も研修生受け入れなどで積極的に交流を進めたいと考えています。